

2023 後期選択「グローバル教育実践演習」から学んだこと

学校経営コース 齋藤 崇人

「グローバル教育実践演習」で中国訪問をさせていただいたことは、私にとって、とても貴重な体験となった。その貴重な体験の中で、三つの場面から、学んだことを振り返る。

まず初めに、新潟大学と北京師範大学珠海分校校区の院生同士による研究発表会で学んだことについてである。

私はコミュニティ・スクールを通して、学校の課題とともに、過疎化・人口減少化における地域の課題も解決していくことについて発表した。地域の課題解決というところが中国も同じように課題として挙げることができるようであり、質問や感想をいただいた。また、私が北京師範大学珠海分校校区の院生の発表で興味をもったことの一つに、最先端のICT教材を活用した、授業の展開方法がある。ICT先進国ならではの授業に対する視点を学ぶことができた。予想通りのICT先進国らしい、動画生成AIを活用した授業の展開方法と予想外の共通点から、日本の教育の発展は、中国の教育の発展にもつながり、そのことがアジアの発展、世界の発展につながることを感じることもできた。

次に、京師南奥実験学校で学んだことについてである。

京師南奥実験学校に着いた初日、校内見学を行った。そこで感じたことは「枠の広さ」である。例えば日本の図書室というと、机と椅子があり、読む本を選んだらその椅子に座って読むというのが基本である。一方、京師南奥実験学校の図書室はフリースペースが多く、図書室のいたるところで読めるようになっている。さらに座るところが椅子ではなく、丸い出窓のような形となっているところもあった。その他に、日本で言う中休みにはパンと牛乳の補食の時間があったり、昼食後には睡眠の時間があったり、温暖な気候にもよるとは思うが、外廊下となっており、廊下には壁が無く開放的になっていたり、様々な場面や場所における枠組みが、日本より広く感じた。日本も枠を広げたり取り払ったりなどし、風通しを良くする必要があると感じた。



最後に、交流を深める親睦会で学んだことについてである。

今回、参加した全ての親睦会で感じたことは、「食」を大切にしていることである。おいしい物を食べ、おいしい物を飲み、満たされた状態で教育の話、家族の話、個人の趣味

の話など、話題が尽きることなく、あっという間の時間であった。短い時間であったが、お互いの距離を縮められたように感じた。交流を深めるのに、話す内容だけでなく、話す場所、話が盛り上がりやすい物など、話しやすい環境を整えることも大切であることを学んだ。

「グローバル教育実践演習」で中国訪問をさせていただいたことは、私にとって貴重な体験となり、これからの新潟県の教育に必要となってくるであろう「グローバル教育」について考えるきっかけとなった。このような機会を提供してくださった新潟大学の教授をはじめ、多くの関係者の方々に感謝致します。また、ここでの学びを、これからの私の教育実践に生かしていく。そして、今後も、多様性を理解し、グローバルな視野を持ちながら、新潟県の教育の発展のために、尽力していきたいと考えている。